

平成二十四年度も残すところわずかとなりました。昨年の今頃、自治会長職をいただくと同時に、社会福祉協議会に何も関わりも、知識もなかった私が副支部長職を拝命いただきました。この一年多くの皆様にご指導・ご協力を賜り、曲がりなりにも、社会福祉協議会活動ができました。

社会福祉協議会稲羽西支部総会、親子ふれあい映画会、近隣ケアグループ研修、岐阜県社会福祉大会、健康講習会など様々な社会福祉事業に参加させていただき、社会福祉協議会活動がいかに大切で難しいかを知りました。見守り隊では、隊員は子供の顔を見、どここの家の子かすぐ分かなければ



稲羽西支部 副支部長
可児 好正

副支部長あいさつ

社協 稲西だより

第 16 号
編 集 発 行
各務原市
社会福祉協議会
稲羽西支部

ばならないのに、実際は親の名前を聞いてもどこの家庭の子供か分からず、お爺ちゃん・お婆ちゃんの名前を聞いてやっと分かる状況でした。

本活動を通して、地域社会に溶け込むことの大切さ、地域社会の多くの人と積極的に関わりを持つことで社会福祉事業に参加していると見えるのだということを実感する次第でした。

東日本大震災から二年が過ぎようとしています。現在に於いてもまだ復興途上です。これからが地域一体の社会福祉事業活動がより一層必要となるのではないのでしょうか。

実際の地域社会では多くの人が直接的・間接的に手助けを必要としており、高齢者から弱者そして幼児まで安心して毎日を暮らせる地域社会の構築のために、様々な助け合いや支え合いの仕組みを今以上に整え、そして各組織が強力に支援するという熱意が一人一人に必要となってくるように思います。

これからの福祉にはお互いの個性・プライバシーを尊重しながら自然体でふれあい助け合うことのできる「新しい福祉」の在り方が求められています。

活動の基本姿勢は「やさえて、ささえられてみんなが主役の町づくり」です。活動に多くの住民が参加すればするほどに人の心のふれあいが増えてゆき、豊かな地域社会が形成されるのではないのでしょうか。

私自身、あとわずかで副支部長の役職を終えさせていただきます。引き続き積極的に地域社会の多くの人と関わりを持ち「身近なところから、出来ることを」背伸びせずに携わっていこうと思っております。

最後になりますが、社会福祉協議会稲羽西支部の関係者、福祉協議会行事に参加いただきました皆様には大変お世話になりました。

心よりお礼申し上げます。

平成24年度 稲羽西支部活動報告

3月	2月	1月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	月
29(金)	16(土)	1(金)	1(金)	12(火)	22(火)	17(土)	17(土)	30(火)	6(土)	1(月)	23(日)
16(土)	1(金)	1(金)	1(金)	12(火)	22(火)	17(土)	17(土)	30(火)	6(土)	1(月)	23(日)
次年度支部二役選出会議(予定)	定期支部総会(予定)	理事会(予定)	稲西だより(16号)発行	支部二役会(稲西だより編集会議)	支部二役会(稲西だより編集会議)	各務原市社会福祉大会	支部二役会(稲西だより編集会議)	支部二役会(稲西だより編集会議)	支部二役会(稲西だより編集会議)	支部二役会(稲西だより編集会議)	役員選出打ち合わせ(民生委員児童委員)

稲羽地区 連絡会について 地域ケア



稲羽コミュニティセンターにて、「かかみがはら高齢者総合プラン」のポイントと、地域からの声」と題して、福祉関係者、民生委員、自治会、近隣ケア、ボランティアハウス、シニアクラブなど、多くの方にお集まりいただきました。「かかみがはら高齢者総合プラン」とは、各務原市における高齢者の福祉・介護施策の推進と介

護保険事業の円滑な運営を図ることを目的に、老人福祉法に規定する「老人福祉計画」と、介護保険法に規定する「介護保険事業計画」を一体的に策定したもので、現在は五期目(平成二十四年(二十六年)にあたります。この計画を

「地域福祉力」の当事者である地域の皆さんにもっと広く紹介して理解していただくとともに、各機関が日頃の活動や悩みを紹介してお互いを協力について、一緒に考えるきっかけになれば良いと思います、この会を企画しました。

【市高齢福祉課から】

◇「地域福祉力」を活かした総合的な地域包括ケア体制の構築：高齢者が住み慣れた地域での生活を続けられるように、医療機関、福祉・介護保険事業所、民生委員や自治会、近隣ケア、シニアクラブなど地域のさまざまな方々が連携して支えていく体制を作りたい。こうしたネットワーク

を活用した支援において、地域包括支援センターはコーディネートする役割を担います。

◇「高齢者が生きがいを持って、担い手となる仕組みづくり」：高齢者は増えていきますが、元気な高齢者も増えていきます。元気な高齢者も支援の必要な高齢者を支えます。その一つとして、シルバー人材センターによるワンコイン(百円・五百円)サービ(ゴミ出し、草引き、台風時の戸締り、電球の取り換え、冷暖房器具の入れ替えなど)が二十四年度からスタートしました。

【シニアクラブ、ボランティアハウスから】

日頃の取り組みや悩みなど、非常に参考になるお話でした。意見交流の結果、他の町の活動を見学する話もまとまったようです。

今後も、いろいろな視点で地域ケア連絡会を開催する予定です。ご参加をよろしく願っています。

文責 長谷川 大三(社会福祉士)
各務原市地域包括支援センター
つつじ苑
〒504-0931
各務原市大佐野町2丁目58番地
電話 058-371-2226
FAX 058-371-8431

編集後記

いつものように春が来ました。去る者、お疲れさまでした。ありがとうございます。

残る者、更なる活躍を祈ります。来る者、これからのご健闘を期待いたします。

「どうもありがとうございました。」
(K)





健康講習会の開催

十一月十七日、包括支援センター「つつじ苑」の長谷川、西脇、林の三名をお招きし稲西福祉センターにて健康体操の講習を開催しました。参加者は近隣ケアの方や自治会長さん、民生児童委員の方を中心に四十名程度でした。

①二人ペアになって、脳と身体の活性化を図り骨盤の矯正になる、寝た状態でボールを足にはさんで前後



する運動を行いました。②腹ばいになってボールを左右に動かす、肩こりにきく運動を行いました。③上むきに寝てボールを腹の上に置き息をはきながら押してボールを左右に動かす、便秘にきく体操を行いました。百均で売っている大き目のボール（空気が八十%程度のもの）を使用しました。普段使わないインナーマッスル（内側の筋肉）を鍛える運動を行いました。最後にストレッチを行い、講習会を終わりました。

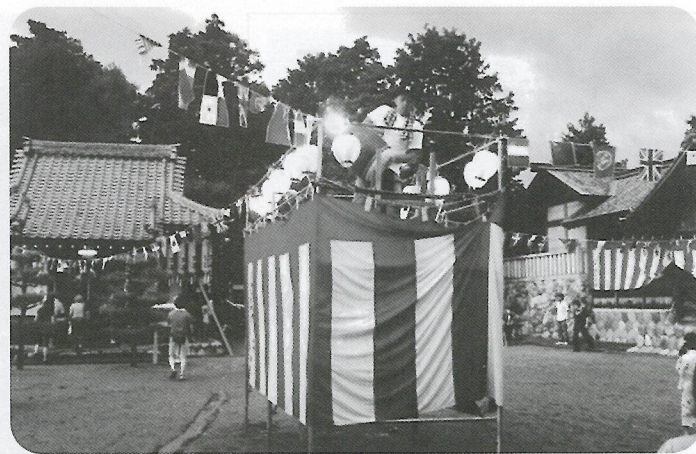
小佐野町子供会一年を振り返って

小佐野町育成長 永縄 利恵



今年は「小佐野バンザイ！明るく楽しく元気よく安全第一」をスローガンに活動していききました。七月「七夕会&見守り隊交流会」地域の方と一緒にゲームをしてカレーをみんなで食べ、交流をはかりました。

八月「千日詣りふれあい盆踊り大会」。毎年行燈の絵を書いたり、役員で夜店を出したりしていましたが、今年は盆踊りを盛り上げようと盆踊りコンクールを行いました。子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで、たくさんの方に参加していただき、大いに盛り上がりました。



稲羽西支部によせて

日頃は各務原市社会福祉協議会の活動にご理解をいただき、厚くお礼申し上げます。また稲羽西支部におかれましては、八割近い皆様に社協会員協力を賜わりありがとうございます。九月十九日に行われた福祉座談会では、日本福祉大学伊藤重希子先生をお招きし、二つのテーマで話し合いを行いました。



テーマ①稲羽西地区のよいところ

【人】

- ・顔見知りが多い ・人がやさしい
- ・見守り隊、子どもたちとの繋がりが多い
- ・地域の人々のつながりが強い
- ・ご近所で野菜のやりとりや声かけがある

【街】

- ・穏やかな街 ・都会過ぎず田舎すぎない
- ・大型スーパーが近い ・交通の便が良い

【自然】

- ・自然が美しい ・自然が豊か

【地域】

- ・地域の行事が多い
- ・盆踊りや三世代交流がある

など

テーマ②稲羽西地区の困っていること

【社協に対して】

- ・役員をやらないと社協を知らない人が多い
- ・ボランティアハウスがたくさんできるといい

【街に対して】

- ・通り抜けの車が増えたため事故も増えた
- ・シニアと子どもが交流できる場所が欲しい
- ・近くに総合病院がない ・街路灯が少ない
- ・ワンコインバスの本数を増やして

【人に対して】

- ・閉じこもりがちなお年寄りが多い
- ・個人情報壁になっている
- ・子どもたちに声をかける大人が少ないので子どもが挨拶をしない
- ・ゴミ当番が決まっていない

など



この「稲羽西地区の困っていること」の中には、行政でなければ対応できないこともあれば、「稲羽西地区のよいところ」を活かすことで、ご近所で解決できることがあるように思われます。

も陰ながら支援していただきます。また、支部を担当している者として他支部に比べ行事があるという時には多くの方が参加され、稲羽西支部の「つながり」の強さを感じています。主役は稲羽西地区に住んでいる皆さんです。



シニアクラブ会長の
あいさつ

澤田 佳辰

稲羽地区のシニアクラブはとても活発に活動しています。それには健康が

一番です。健康であることの証はよく寝ること。よく食べること。よく体を動かすこと。歩くこと。おしゃべりを一日に五人以上とすること。

当然散歩をすれば途中で会う人と挨拶します。朝は「おはようございます」昼間は「こんにちは、お元気そうですね」夕方から夜は「こんばんは」こんな短い言葉でも声の高い低い元気よい態度が相手に元気を伝えることができます。

朝、小学生中学生の登校時行き交った子ども達に先に挨拶の「こ」とは「を」かけると必ず元気な返事が返ってきます。

食に移ります。朝昼晩三食をしっかりと食べましょう。健康は食事をどれだけ重要視してもしすぎではありません。昔から一日三十品種をとるように心掛けることが大切と先人が教えてくれました。

自分で得意な料理をつくるのもよし、外食したとき印象に残った食物はよく観察し自分でも試してみたいかですか。ああでもないこうでもない味が少し薄かった、濃かったと思い出しては作ることも楽しみにつながります。

おそろ分けを近い人に食べていただき「おいしい」と言っていただければ最高です。人生は自分の喜びを他にも分け与える喜びを感じる時が幸福の一時です。幸せな人生で「ピンピン百才」です。

近隣ケアグループ
活動について

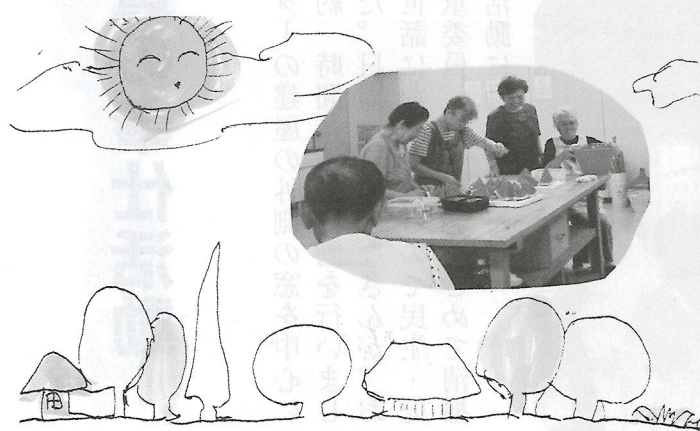
上屋近隣ケアグループ
サルビア会 河田 文代

平成元年からサルビア会が始まり、毎年友愛訪問の活動が続けられています。

毎年六人の人数にて活動しており現在まで本当に沢山の先輩の方々が手掛けられております。活動内容は独居の方、寝たきりの方等十三名の方に弁当、おやつなどを持って訪問しました。一年に一回の訪問活動ですが、六人のケアグループの方の十二の目が上中屋町を見つめていることになりました。

万が一災害が発生したり、事故等がおこってもサルビア会員の頭の中には訪問した方の事が頭の中に入っているといます。

小さな活動がどこかで大きな活動につながって行くと思います。ずっと続けて行きたい活動です。私自身、上中屋に住んで今まで、ケアグループの活動について知りませんでした。自治会役員に参加させて頂く中でサルビア会を知り、訪問活動に参加できた事は、本当に貴重な体験になりました。

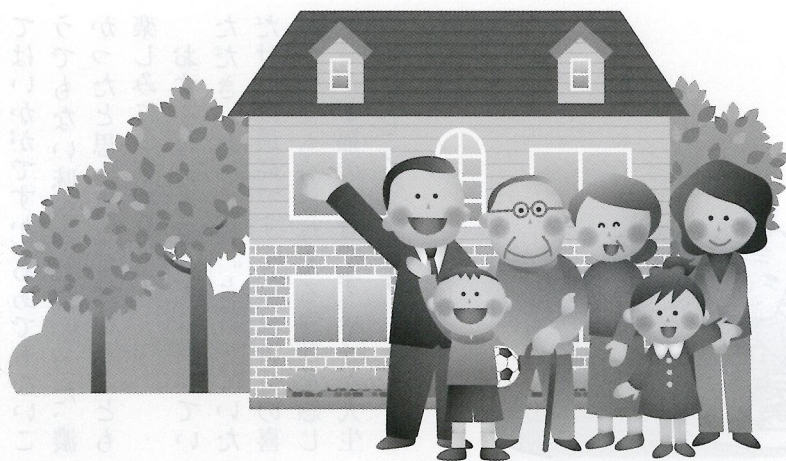


「友愛訪問事業」について

社協稲羽西支部長 河田 博

地域福祉事業の一環として取り組まれています友愛訪問、稲羽西地区におきましては、大伴百軒ほどの方が、この訪問を大変楽しみにしておられます。私もこのお楽しみ袋を詰める作業を手伝わせてもらった経緯がありました。一つ一つの袋詰めをしている時に誰に渡るのだろうか？お一人お一人の顔を浮かべながら私なりに大切に作業をさせてもらいました。友愛訪問の目的は、当方におきましても他の市町村同様、高齢化が増す傾向になっていきます。孤独になりがちな家庭を廻りながら近況を伺いながら話をさせてもらいました。

最後に民生・児童委員、近隣ケアそして各自治会長の皆さんのご協力本当にありがとうございます。



民生・児童委員の奉仕活動

八月九日、稲羽民生・児童委員協議会を午前中に稲羽コミュニティセンターにて行った後、盆休み前の非常に暑い日でありましたが、包括支援センター「つつじ苑」デイサービスセン

ターの建屋の外側の窓を中心に約一時間半清掃活動を行いました。日頃地域のみなさんが、お世話になっているので民生・児童委員、精一杯心をこめて清掃活動に励みました。

